

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 日本語教室 はればれ

1. 事業名称 総社地区でつくる外国人と日本人の交流促進事業

2. 事業の目的

- ・地域の外国人住民が、日本語を学ぶことで言葉の壁による生活上の不安を解消し、「はればれ」とした心で、自尊心を持って、快適で自立した生活ができるように学習支援を行う。
- ・学習者が、自主的・自発的に地域の活動に参加できるように支援を行う。
- ・関係機関と連携して、地域の住民に日本語教育の重要性についての理解を求める。

3. 事業内容の概要

- ・地域の行事や諸活動が、外国人住民にとっても参加しやすいものとなるように、行政機関、自治会、子ども会、その他の関係機関と協議する。
- ・日本語教室を開催し、地域の行事や活動(歴史祭り、文化祭など)への参加を目的とした授業、子育てや防災など生活上の必要に直結した内容の授業をおこなう。
- ・地域の文化活動などの情報を翻訳できる人材を育てる。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年9月8日、13:00～	2時間	前橋市総社公民館	射場光晴、江口安美、鈴木数成、瀧澤幸恵、岩井愛、増木里美、森田恵、小林肇	1. 委託事業の概要 2. 25年度はればれ事業計画 3. 広報 4. 事業の日程	事業の概要についての確認、事業計画・日程の細部の検討、広報の方法について検討
2	平成25年12月1日、13:00～	2時間	前橋市総社公民館	射場光晴、江口安美、太田祥一、鈴木数成、瀧澤幸恵、岩井愛、増木里美、森田恵、小林肇	1. 事業前半の活動 2. 事業後半の日程 3. 次回運営委員会	事業前半の活動についての報告、後半の活動の日程の確認、実施方法についての再検討
3	平成26年3月9日、13:00～	2時間	前橋市総社公民館	射場光晴、江口安美、太田祥一、鈴木数成、瀧澤幸恵、岩井愛、増木里美、森田恵、小林肇	1. 事業の反省 2. 事業終了後の活動	事業全体についての反省(達成状況、成果、改善点、課題)、事業終了後の活動方針の検討



5. 取組についての報告

○取組1:総社地区の活動についての検討会議

- (1) 体制整備に向けた取組の目標
 - ・地域の諸行事・活動を在住外国人にとっても参加しやすいものにする。
 - ・地域の人々に当地の日本語教育の体制を知ってもらい、また、地域の諸団体・機関との情報の共有、交流の促進を目指す。
- (2) 取組内容

地域の行事や文化活動(歴史祭り、文化祭、自治会活動、子供会行事等)への外国人の参加を容易にするため、関係諸団体・機関と協議を行う。
- (3) 対象者

前橋市国際交流協会、前橋市総社公民館、地域の自治会、教育機関等
- (4) 参加者の総数 5 人
(出身・国籍別内訳 日本5人)
- (5) 開催時間数(回数) 2時間 (全 2回)
- (6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 9月6日 16:00- 17:00	1時 間	前橋市総社 公民館	4人	日本4 名	前橋市総 社公民館 事業と日 本語教室	公民館に文化庁委託の 日本語教室開催の目的 を伝える。公民館事業と の連携の方法を検討	増木里美	なし
2	平成25年 12月6日 16:00- 17:00	1時 間	前橋市警察 署	2人	日本2 名	自転車運 転マナー アップ講座	日本の交通ルール、主 に自転車の安全講習の 内容について検討	増木里美	なし

- (7) 参加者の募集方法

- (8) 特徴的な活動風景(2～3回分)
 - ・総社公民館館長との会合
- 公民館は地域の様々な文化活動の中心となっている。多くの学習グループが活動の場とし、また公民館主催の文化行事も多い。したがって、地域の行事・活動を、外国人にとっても参加しやすいものとするために、公民館との協力関係は極めて重要である。そこで、地域の文化活動・行事のありかたについて、当地域の公民館、総社公民館の館長に会合を求めた。当日本語教室は数年来、同公民館を活動の拠点とし、公民館主催の行事にも度々参加してきたので、館長からは快諾が得られ、会合をもつことができた。館長は、外国人住民が地域社会で孤立してしまうことなく、日本人と同様に様々な活動・行事に参加できることの重要性に理解を示し、また、このような会合の場を設けることも重要であるとの認識を示した。さらに、地域の活動・行事を外国人住民にとっても参加しやすいものとするため、当教室で、そうした活動・行事のチラシ類の翻訳版を作成することを検討していると伝え、館長の側から、隔年で開催している地域の歴史祭りのチラシを翻訳してはどうかとその場で提案された。

・前橋市食生活改善推進委員との会合

食と健康は国籍を問わず関心の高いテーマである。特に外国人には、健康的と言われる日本の伝統的食文化に対する関心が高い。一方で、料理教室などに参加したいという思いもあるが、一般の人を対象とし、したがってその参加者のほとんどが日本人という教室や講習への参加は、日本語力への不安などから抵抗があるという外国人も多い。そこで、前橋市から委嘱を受け、食を通じた健康づくりを目的に活動している前橋市食生活改善推進委員と会合をもち、同委員らによって構成される食生活改善推進協議会と当日本語教室との、食と健康をテーマとしたイベントの共催について検討した。これまでも日本語教室として食文化をテーマとしたイベントは開催してきたが、主として教室の学習者の出身国の料理を紹介するもので、学習者がそれぞれに職場の日本人の同僚を招くなどして交流の機会も持てたが、基本的には教室関係者内での交流にとどまっていた。その点、日本語教室と市の食生活改善推進協議会との共催イベントならば、外国人にとって参加しやすく、かつ地域の一般の日本人と交流しながら、日本の食文化、料理を学ぶことができる。会合では、食生活改善推進委員から、共催イベントのこうした意義について十分な理解が得られ、また、外国人に日本の伝統料理を教えることについては、委員の側でも関心が高いとのことであった。こうした認識のもとで、具体的なイベントの持ち方について話し合った。当教室の方から、外国人学習者の間で特に関心の高い食材、料理などを伝え、委員の側からも積極的な意見が出され、イベントでは、食材の栄養面での効能を学び、料理についても、出汁の取り方など、基本的なことから学べるような内容にするといったことが決められた。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

- ・当教室の活動を含めた地域の日本語教育の体制についての地域の人々の認識を高めるという目的に関しては、本取組で会合を持った諸団体・機関の関係者についていえば、一定の成果があったといえる。会合では、常にこれら諸団体・機関の関係者から会合のテーマについての積極的な提案がなされ、また会合の後でも連絡をもち続け、様々な助言を得ていることはその証左と言える。
- ・本取組を通じて築いた公民館との関係を基礎に、公民館主催の地域文化祭にも教室として参加し、当教室の学習者の半数近くをしめるブラジル人学習者たちの郷土の料理を売る売店を出したのであるが、来場者の中には、文化祭のチラシを見て当教室の売店に関心を持ち、それを目当てに祭りに足を運んだという人もいた。このことから、地域の人々の、当地の日本語教育活動への認識、理解を高めるという目標の実現に向け、一定の前進があったといえるであろう。
- ・地域の諸活動・行事を外国人にとっても参加しやすいものにするという点についても前進があった。公民館館長との会合で、館長の側から、地域の歴史祭りのチラシの翻訳版作成の提案があり、実際に本事業の取組3の実践として3カ国語の翻訳版を完成することができた。このチラシは、実際に配布されただけでなく、公民館のサイトにも掲載された。

(10) 改善点について

- ・本取組における、諸団体・機関の関係者との会合を通じて、これらの団体・機関とは確かな協力関係を築くことができた。しかし、会合は各団体・機関との個別的なものにとどまり、当初構想した、これらの諸団体・機関と当教室で構成する協議会の結成や、さらには同協議会加盟団体・機関の代表が一堂に会しての、地域の活動・行事についての検討会議の開催には至らなかった。これらの団体・機関の関係者は、それぞれに多忙な中で各所属団体・機関の活動に従事しており、それに加えて新たな協議会の結成や会議への参加は難しいとのことであった。そこで、将来的には、あくまでも当初構想したような横断的な協議会の結成を模索するべきか、それとも、本取組で築かれたような個別的な関係を、より多くの関係団体・機関との間で結ぶことで、目標の達成を目指すべきか、検討が必要である。

○取組2: 地域の活動に参加するための日本語講座

(1) 体制整備に向けた取組の目標

地域の諸行事・活動に参加し、他の住民との円滑な交流ができるようになる、コミュニケーションのための日本語の習得

(2) 取組内容

- ・各学習者の要望に応じた日本語学習のカリキュラムを作成する。
- ・地域の歴史祭りや文化祭に参加するための準備学習・事前学習をする。
- ・その他、生活上の様々な場面で円滑なコミュニケーションができるよう、日本語指導を行う。

(3) 対象者 外国人住民

(4) 参加者の総数 34 人

(出身・国籍別内訳 イタリア 1名、イラン 1名、インド 2名、タイ 2名、中国 8名、フィリピン 1名、ブラジル 15名、ベトナム 3名、ペルー 1名)

(5) 開催時間数(回数) 48時間 (全 16回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
----	------	-----	----	------	--------	--------	----	-------	-------

1	平成25年 9月15日 10:00～ 13:00	3時間	総社公民館	0人			休講	森田恵、池 田智子、小 林肇、増木 里美	岩井愛
2	平成25年 9月22 日、10:0 0～13:0 0	3時間	総社公民館	8人	ブラジル・ポルトガル語2名、 イラン・ペルシア語1名、インド・タミル語2名、中国・中国語1名、タイ・タイ語1名、イタリア・イタリア語1名	自己紹介、 映画	自己紹介の仕方を学ぶ、映画について話す(好きな映画、自国の映画の特徴など)	森田恵、池 田智子、小 林肇	岩井愛、梁 宏博
3	平成25年 9月29 日、10:0 0～13:0 0	3時間	総社公民館、 大渡温水プ ール・トレー ニングセン ター	6人	イラン・ペルシア語1名、インド・タミル語2名、中国・中国語2名、タイ・タイ語1名	スポーツ施 設を利用す る	スポーツについて話す(好きなスポーツ、経験、自国で人気のあるスポーツなど)、スポーツ施設の利用案内を読む、施設を訪問して、利用法等について、職員に尋ねる	森田恵、池 田智子、小 林肇	岩井愛、梁 宏博
4	平成25年 10月13 日、10:0 0～13:0 0	3時間	総社公民館	13人	ベトナム・ベトナム語2名、 中国・中国語2名、タイ・タイ語2名、ブラジル・ポルトガル語7名	遊び、ゲー ム	遊び・ゲームについて話す(好きな遊び・ゲーム、自国で人気のある遊び・ゲーム、ゲームのルールの説明)	小林肇、田 代由貴、増 木里美	岩井愛、梁 宏博
5	平成25年 10月20 日、10:0 0～13:0 0	3時間	総社公民館	13人	ベトナム・ベトナム語1名、 イラン・ペルシア語1名、中国・中国語4名、タイ・タイ語2名、ブラジル・ポルトガル語5名	アート	芸術について話す(好きな芸術分野、経験など)	森田恵、小 林肇、田代 由貴	岩井愛、梁 宏博
6	平成25年 11月3 日、10:0 0～13:0 0	3時間	総社公民館	11名	ブラジル・ポルトガル語4名、 ベトナム・ベトナム語1名、 イラン・ペルシア語1名、 中国・中国語3名、 タイ・タイ語2名	祭り	自国の祭りについて話す(由来、祝い方など)、総社地区の歴史祭りについて学ぶ	森田恵、池 田智子、小 林肇	岩井愛、梁 宏博
7	平成25年 11月17 日、10:0 0～13:0 0	3時間	総社公民館	11名	ベトナム・ベトナム語1名、 イラン・ペルシア語1名、 中国・中国語3名、 ブラジル・ポルトガル語4名、 タイ・タイ語2名	地域の文化 祭	地域文化祭参加の事前学習(日本人に自国の文化、観光地、言語などについて説明する練習、文化祭の屋台で販売する物品について話し合う)	田代由貴、 池田智子、 小林肇	岩井愛、梁 宏博
8	平成25年 12月8 日、10:0 0～13:0 0	3時間	総社公民館	16人	ベトナム・ベトナム語1名、 フィリピン・タガログ語1名、 イラン・ペルシア語1名、 中国・中国語4名、 ブラジル・ポルトガル語6名、 タイ・タイ語2名、 ペルー・スペイン語1名	災害・防災	災害・防災に特有の言葉を学ぶ、広報の防災の案内を読む	森田恵、小 林肇、増木 里美	岩井愛、梁 宏博

9	平成25年 12月15 日、10:0 0~13:0 0	3時間	総社公民館、 前橋防災セン ター	4人	ベトナム・ベト ナム語1名、 中国・中国語 1名、タイ・タイ 語2名	災害・防災	市の防災センターで職員の指 導のもと防災訓練を体験する	森田恵、小 林肇、増木 里美	岩井愛、梁 宏博
10	平成25年 12月22 日、10:0 0~13:0 0	3時間	総社公民館	7人	ベトナム・ベト ナム語2名、 中国・中国語 2名、タイ・タイ 語1名、ブラジ ル・ポルトガル 語2名	年末年始	自国の年末年始の習慣・過 し方を話す、日本の年末年始 の挨拶を学ぶ、年賀状を書く	池田智子、 小林肇、増 木里美	岩井愛、梁 宏博
11	平成26年 1月12 日、10:0 0~13:0 0	3時間	総社公民館	7人	中国・中国語 4名、タイ・タイ 語2名、ブラジ ル・ポルトガル 語1名	交通安全	交通事故の経験を話す、事故 の状況を正確に説明する練習	森田恵、池 田智子、小 林肇	岩井愛、梁 宏博
12	平成26年 1月19 日、10:0 0~13:0 0	3時間	総社公民館	7人	中国・中国語 3名、タイ・タイ 語2名、ベトナム・ベトナム語 1名、ブラジ ル・ポルトガル 語1名	交通安全	交通規則の用語を学ぶ、広報 の交通安全の案内を読む	森田恵、池 田智子、小 林肇	岩井愛、梁 宏博
13	平成26年 1月26 日、10:0 0~13:0 0	3時間	総社公民館、 群馬県総合交 通センター	10人	中国・中国語 5名、タイ・タイ 語1名、ベトナム・ベトナム語 2名、ブラジ ル・ポルトガル 語1名、フィリ ピン・タガログ 語1名	節分、交通 安全	節分についての説明を聞いて 話し合う、県の交通センターを 訪れ、職員の話聞いて、質 疑応答を行う	森田恵、小 林肇、増木 里美	岩井愛、梁 宏博
14	平成26年 2月9日、 10:00~ 13:00	3時間	総社公民館	7人	中国・中国語 3名、ブラジ ル・ポルトガル 語4名	健康、食 事、医療	病気の症状を説明する練習、 薬の使用法を読む、健康と食 品の関係について話す	森田恵、小 林肇、増木 里美	岩井愛、梁 宏博
15	平成26年 2月16 日、10:0 0~13:0 0	3時間	総社公民館	1人	中国・中国語 1名	食文化、観 光	自国の食文化、観光地につい て説明する	小林肇、増 木里美	
16	平成26年 3月9日、 10:00~ 13:00	3時間	総社公民館	5人	中国・中国語 4名、タイ・タイ 語1名	食文化	料理の作り方を説明する、説 明を聞き理解する、一般の日 本人と一緒に料理・会食をしな がら会話する	森田恵、小 林肇、増木 里美	岩井愛、梁 宏博

(7) 参加者の募集方法

・チラシ配布(公民館に置くとともに、スタッフが個人的に配布)

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

・第9回授業(テーマ:災害・防災)

災害は日本人にとっても大きな問題であるが、言葉の面で不便のある外国人にとっては、より深刻である。前橋市は、比較的、大きな自然災害に見舞われることの少ない地域で、事実、そう認識している者は、地元の日本人住民と同様、外国人住民の中にも多い。しかし、災害とは予期していないときにやってくるものであり、ことに2011年の東日本大震災の後では、災害への備えの重要性が一層強く認識されてきている。教室の学習者からの要望の聞き取りでも、災害、防災は、常に授業で取り上げてほしいテーマとしてあがってくる。そこで、教室の学習者、スタッフで前橋市防災センターを訪れ、火災訓練を体験した。119番通報、初期消火、煙内避難という3種の訓練を体験した。119番通報訓練は、訓練用の電話を使って119番に通報し、電話の音声の指示に従って、火事の場合、自分の住所、氏名、電話番号等を順に伝えるというもので、訓練の進捗状況が、電話のわきのモニターに表示されるのだが、声が小さかったり、不明瞭だったりすると先に進めないようになっている。参加した学習者は、おおむねしっかりと日本語で、応対出来ていた。初期消火とは、火災発生の初期段階での消火活動のことで、消火器や消火栓を使って行う。訓練は、まず周囲の人に大声で火事を知らせる「火事触れ」の訓練から始まった。大声で「火事だ」と叫ぶのだが、学習者は皆、大きく明瞭な声が出せていて、楽しんでくれたが、真剣さも感じられた。その後、訓練用に水を充填した消火器を使って、壁一面を使ったモニタースクリーンに映し出される火事の現場の映像に向けて放水する訓練をした。正確に火元を狙わないと、消火できない設定になっていた。訓練の前にセンターの担当者から説明があり、消火器の構造や仕組みについての話は少し難しかったようだが、消火器の使用法は、皆よく理解できていて、指示通りに正しく使えていた。ただ、消火器はかなり重く、しかもホースからはかなりの水圧で放水されるようなので、狙いを定めるのは大変そうであった。煙内避難訓練は、食品添加物で作った煙の充満した通路を、いくつかの防火扉をくぐりながら通り抜けるというもの。やはり事前にセンターの担当者からビデオを使った説明があった。煙の危険性の説明は、言葉だけでは難しかったかもしれないが、ビデオ映像の助けがあったので、学習者にも概ね伝わっていたと思う。避難の方法の説明は、全員がよく理解できていた。とはいえ、「床面から70センチ以下の低い姿勢で進む」という、要するに匍匐前進で進むという指示は、訓練での実践は難しかったようだ。訓練に使った通路にはセンサーがついていて、姿勢が高いとブザーが鳴る仕組みなのだが、訓練中ずっと鳴り通しであった。最後に、はしご車、タンク車等、勢ぞろいした最新の消防車両と大正時代の消火道具の実物を見ながら、センター職員の説明を聞いた。職員の冗談も交えた説明は、学習者には難しかったようだ。やはり、冗談や言葉遊びといったものは、外国語学習の中でも最も難しいもののひとつなのである。

・第13回授業(テーマ:交通安全)

交通安全もまた、誰にとっても大事な問題であるが、交通規則は各国で異なるため、外国人の抱く不安は大きい。しかも、法規に使われる日本語は、会話の得意な学習者でも、難しいということが多い。さらに、昨年12月の法改正で自転車利用者に対する罰則が強化され、多くの外国人労働者をかかえる一部の企業や日本語学校では、警察の出張講習などを利用して対応していたが、教室の学習者の中には、自転車利用者が多いにもかかわらず、そうした講習を受ける機会のないものも多く、授業でとりあげることとした。この日の授業では、群馬県総合交通センターを訪れ、警察の担当者による講習を受けた。最初に見たビデオは、高校生向けに自転車の安全運転を呼び掛けたもので、学習者の生活実感とは異なるものであったかもしれないが、内容はよく理解できていた。次に、職員の指示で、器具を用いた反射神経や夜間視力の検査を体験した。これは、ゲーム感覚でできるもので、学習者たちは楽しみながらやっていた。最後には、警察の担当者の話を聞き、質疑応答となった。参加者からは、「自転車運転中のヘッドフォンは禁止とあるが、片耳だけのイヤフォンは良いか」といった、具体的な質問がなされていた。





(9) 取組の目標の達成状況・成果

・今回のコースでは「教室から一歩外へ出ていく」ことを念頭に 身近な文化施設を訪ねたり見学コースを組み入れたりできたことが新しい取り組みだった。日本語使用の面からいえば、利用案内を読むことから始まり 施設のスタッフの話を聞く、使い方を尋ねるなど総合的な学習ができた。特に施設のスタッフや文化祭などで普段あまり接する機会のない年配の日本人の話を聞くのは、良い機会だった。日本語で情報を得る、さまざまな体験をすることで「学習」という意識なく言葉の使い方を学べたのではないかな。

・学習内容としては、日本語指導の目標である、《学習者の要望に応じたもの》、《行事参加への準備》、《日常生活での不明点（書類手続きなど）》の3つを並行して行っていた。

1日3時間と時間的にも余裕があったので、《参加者全員でテーマについて話す》→《学習者とスタッフが一対一で個別に相談・アドバイスに応じる時間》という流れで行うことができた。全員での時間をとることで教室全体のまとまりができた。日本語のレベル差はあったが、全体の進行役を務める指導者と、個別的な補助が必要な学習者のそばについて、言葉の意味や漢字など、必要に応じて学習者の母語も用いながら説明するスタッフとの共同作業で進めた。学習者間でも母語が同じ者同士助け合う場面が見られ、中級の学習者はそれによって自信がついたのではないかな。ただ、全体での話し合いはどうしてもひとりひとりの発言が少なくなってしまうので、一対一で自分の意見や不明点を確認したり、生活上の悩みを相談したりする時間はとるようにした。

・毎回のテーマは活動につなげられるものを念頭に決めていった。ひとつのテーマで学習者と教室スタッフがそれぞれ個々の体験や興味ある事柄を説明していくことで、「教える・習う」という関係よりは「情報を交換し合う」場になった。

・学習者が自主的・自発的に地域の諸行事や活動に参加して、一般の人々と交流するという目標についても、以下の結果から、実現に近付けたといえるであろう。すなわち、公民館主催の歴史祭りの主要プログラムとして行われた武者行列に、当教室学習者の一人が、自ら応募して参加したことである。この武者行列に参加するには、当日の本番のみでなく、事前の甲冑の着付けやリハーサルにも参加が求められ、主催者の公民館関係者や他の参加者など、一般の日本人と交流する機会も多い。そして、祭り当日には、他の参加者とともに甲冑姿で堂々と武者行列に参加する当学習者の姿があった。公民館主催の、もう一つの主要行事、総社地区文化祭にも教室として参加し、当教室の学習者の半数近くがブラジル人なので、ブラジルの軽食を売る売店をだした。この文化祭への参加については、様々な決定の過程が教室スタッフの主導となってしまった面もあるが、学習者たちは、公民館の調理室でも、売店の店頭でも、多くの一般来場者や他の参加団体関係者と交流できた。その際には事前学習で準備した、出身国の名所、名物などの説明や、母語の挨拶集等も活用して、より充実した交流を結ぶことができた。

(10) 改善点について

・本取組においては、《文化祭参加》、《災害・防災》、《食と健康》など、いくつかの活動テーマを設け、各テーマにつき〈事前学習〉→〈活動〉→〈振り返り〉という流れを何回かの授業に分けて計画したが、学習者が継続して来られなかったり、大雪など予想外の天候不良で教室が中止になったり等で、例えば、事前学習はしたが活動に参加出来なかったという学習者も多く、また活動の振り返りも十分に出来なかった。1日で行うのも時間的な問題があるので、今後の課題にしたい。

日本語能力の評価の面でも、取組の修了時が大雪の時期と重なって、教室に参加できない学習者が多く、十分にまとめが出来なかった。毎回の授業後に各学習者について作成している学習記録を更に活用し、回ごとの習得事項・目標到達状況を確認していきたい。

○取組3: 多言語イベントチラシ作成に必要な能力を持つ人材の育成

(1) 体制整備に向けた取組の目標

- ・地域の諸行事・活動への外国人の参加を促進する
- ・チラシ翻訳を通じた、外国人の日本語能力の向上

(2) 取組内容

地域の行事・活動等のチラシを、通訳の専門家などと協力して翻訳できる人材を育成するための日本語指導を行う。出来上がったチラシ等は地域の諸団体、機関を通じて配布する。

(3) 対象者 外国人、日本人

(4) 参加者の総数 4 人

(出身・国籍別内訳

中国 3人、ブラジル 1人

(5) 開催時間数(回数) 12時間 (全 4回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 10月13日 13:00～ 15:00	2時間	前橋市総社公民館	2人	中国2名	秋元まつり	地域のまつりである秋元まつりについての概要を理解してもらう	小林肇、増木里美	
2	平成25年 10月20日 13:00～ 15:00	2時間	前橋市総社公民館	3人	中国2名、ブラジル1名	秋元まつり	秋元まつりに関連した地元に関わる話を翻訳する	小林肇、増木里美	岩井愛、馬鉄、アメデオ
3	平成25年 12月20日 13:00～ 15:00	2時間	前橋市総社公民館	1人	中国1名	伝統料理と健康について	和食と健康について	小林肇、増木里美	
4	平成26年 1月12日 13:00～ 15:00	2時間	前橋市総社公民館	1人	中国1名	伝統料理と健康について	地元の伝統料理と生活習慣病予防講話のチラシづくり	小林肇、増木里美	

(7) 参加者の募集方法

取組2の日本語教室参加者の中から希望者を募った。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

・「総社秋元歴史まつり」中国語版チラシ作成

「総社秋元歴史まつり」は隔年で開催される総社公民館主催の行事で、毎回各地から多くの来場者を集めている。取組1の活動を通じて公民館からこの行事のチラシの翻訳版作成の提案がなされ、本取組で取り上げた。作業は教室の中国人学習者、日本語指導者、地域の企業で通訳業務にもたずさわっている教室のスタッフによっておこなった。まず、翻訳を担当する学習者が、チラシ原文を正確に理解するため、日本語指導者とともに全体を精読していった。歴史まつりのチラシなので、祭りの由来の説明文には、「～領」、「～石」、「年貢」といった歴史的な言葉もでてきたが、漢字文化圏の中国人学習者にとっては、内容理解は比較的容易であったようだ。ただ、正確を期するため、適宜日本語指導者が内容について学習者に質問し、理解を確認しながら読み進めて行った。この読解作業の後、学習者がチラシを翻訳し、翻訳・通訳者の教室スタッフが訳文を見直した。

・「総社秋元歴史まつり」ポルトガル語版チラシ作成

当地域には多数のブラジル人がおり、当教室の学習者も半数近くがブラジル人である。しかし、地域の行事や活動に参加するブラジル人は必ずしも多いとは言えないのが実情である。そこで、歴史まつりのチラシのポルトガル語版の作成を試みた。作業は、教室のブラジル人学習者、日本語指導者、市の相談窓口等での通訳・翻訳業務も担当する教室スタッフで行われた。指導者、スタッフの助言を受けながら、学習者が翻訳を進めて行った。祭りの日時、場所、日程といった部分は問題はないが、やはり、祭りの由来の説明文の訳は難しかったようだ。多くのブラジル人学習者から、「日本語は会話は比較的容易だが、読み書きは難しい」という話を聞く。この作業に参加した学習者も、日本語の会話には大きな不自由はないが、まとまった文章を読むとなると、困難を感じるという。こうしたことからチラシ翻訳の必要性が感じられた。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

本取組の目的は、地域の行事・活動のチラシの翻訳版を作成することによって、外国人住民がそうした行事や活動に参加しやすくすること、そして、地域の外国人住民の中にチラシの翻訳ができる人材、すなわち、自分と母語を同じくする地域の外国人と地域社会とを結びつける役割をすることができる人材を育成すること、さらに、その作業を通じて、翻訳を担当する外国人自身が日本語能力を向上させ、同時に地域の活動により深く関わっていけるようにすることであって、チラシ翻訳版の作成それ自体が目的ではないが、人材の育成という事業にはある程度の期間が必要であり、数カ月の活動で明確な成果を見出すのは難しい。そして、やはり実際に出来上がったチラシが実用性のあるものかどうかは、本取組の成否を考えると重要な指標であると思える。その点、本取組の結果として完成した、地域の歴史まつりの3カ国語による翻訳版が、祭り主催者の公民館によって配布され、公民館のサイトにも掲載されたということは、目標達成に向けた一定の成果と言えるのではないかと。

(10) 改善点について

教室の学習者からの聞き取りでもうかがわれるように、日本語の会話はある程度でき、地域の日本人との交流にも関心があるが、読み書きに困難を覚えるという外国人はかなり多い。その点を考えると、チラシ類の翻訳ができる人材を育成することが重要であることは間違いない。しかし、ブラジル人学習者からは次のような話も聞いている。以前、総社町やその近辺の地域には現在よりも多くのブラジル人が住み、たいいていの職場や地域社会には、比較的高い日本語力をもつリーダー的なブラジル人が他のブラジル人を助けるというある種の共同体のようなものが形成されていて、そのため、ブラジル人は日本語が分からなくとも、仕事でも生活でも不便を感じる事がなく、したがって日本語を学ぶことなく過ごしてしまい、経済危機によってこの共同体が崩壊したときに彼らの多くが突然困難に直面することになったというものである。本取組で育成した人材がこのような依存の対象となるリーダーになってしまえば逆効果である。今回の取組においては、まだそのような心配をする段階ではなかったが、将来的には、考慮していかなければならない問題だといえる。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

- ・地域の外国人住民が、日本語を学ぶことで言葉の壁による生活上の不安を解消し、「はればれ」とした心で、自尊心を持って、快適で自立した生活ができるように学習支援を行う。
- ・学習者が、自主的・自発的に地域の活動に参加できるように支援を行う。
- ・関係機関と連携して、地域の住民に日本語教育の重要性についての理解を求める。

(2) 事業目的の達成状況

- ・地域の諸団体・機関と連携し、地域の人々の日本語教育の重要性についての認識を高めるという目的については、以下の事実から、少なくともその実現のための基盤は築けたと思える。すなわち、本事業の運営委員として、地域の日本語学校の校長、群馬県のエデュケーション担当者、地域で活動する行政書士、前橋市議会関係者等を迎え、運営委員会においては、これら各委員から、それぞれの立場、経験をもとに積極的な提案がなされたこと、本事業取組1の活動を通じて、地域の公民館や自治会連合会、学習グループと協力関係を築くことができたことである。
- ・外国人住民が自主的、自発的に地域の諸行事・活動に参加し、一般の人々と交流できるよう、日本語学習支援を行うという目的については、明白な成果があった。当教室の日本語学習者の一人が、地域の歴史祭りの一部として行われる武者行列に、自ら応募して参加したことである。鎧兜の試着会やリハーサルにも参加し、主催者である公民館の関係者、他の参加者など、多くの人々と交流できたそうである。
- ・外国人住民が、生活上の不安を解消し、快適な生活が送れるよう、日本語学習支援を行うという目的については、学習者からの聞き取りにおいて、その達成に向けての、少しずつではあっても確かな前進がうかがえる。本事業の取組2の活動では、教室の授業のテーマとして「施設の利用」をとりあげ、学習者が地域の様々な施設を利用できるよう支援するための学習をおこない、実際に施設の見学にも行ったのであるが、数名の学習者が、「教室に参加する以前から、図書館やスポーツ施設などの利用に関心があったが、利用法が分からず、日本語にも不安があったため利用できずにいた。しかし教室で学んだ後では、こうした施設に度々足を運ぶようになった」と話していた。また、本事業の開始とほぼ同じ時期に当地域に移り住んで教室に通い始め、この4月から仕事の都合で他県に移動することになったある学習者は、「当初は知人もなく馴染みもない土地での暮らしに不安、不便を感じたが、授業だけでなく、学習面、生活面の色々な相談もできる教室に参加して、今ではこの地域に愛着がわき、離れるのが辛い、またぜひ戻ってきたい」と話していた。

(3) 地域における事業の効果、成果

- ・当地域のおかれた状況は、企業労働者を中心に多くの外国人人口を抱えながら、それぞれに生活形態の異なる外国人住民に十分な日本語学習の機会を提供できる体制がなく、そのために言葉の壁によって、地域の日本人住民との間に、様々な軋轢が生じていたというものである。こうした事情のもと、本事業では、取組1の活動において、地域の日本語学校、国際交流協会との協力関係を築いて意見交換を行い、こうした機関の提供する学習機会を十分に利用できない外国人の便宜を考慮した日本語教室の運営を、取組2として行った。当教室では、授業の内容は、学習者の要望に応じて、生活に直結した内容のものとし、また授業と並行して、日本語学習相談、生活相談などにも随時対応した。さらに、平日は仕事がある、あるいは幼い子供がいるという外国人の事情を考慮し、授業は日曜日の午前で開催し、託児も設置した。また、これらの日本語学校、交流協会とはお互いに学習者を紹介し合い、これらの機関の授業と当教室の授業の両方に参加する学習者もいた。授業内容も形態もそれぞれに異なるので、両方に参加したいということであった。このように、地域の日本語学校、交流協会とは、相互に協力・補完し合いながら、地域の日本語教育活動を行う関係を築くことができた。これは地域の日本語教育体制の基盤となりうる。
- ・また、軋轢を解消していくには、外国人住民が日本語を学ぶことも大事であるが、それと同時に、たとえ日本語力が十分でなくとも、地域の諸活動・行事に参加することで一般の日本人との交流をすすめ、相互の理解を深めることが重要であると考え、本事業のすべての取組を通じて、外国人住民の、地域の諸活動・行事への参加を支援することを目的とした。結果として、当教室の学習者の多くが、地域の歴史祭りや文化祭に参加し、多くの人々と交流することができた。そして教室の学習者からの聞き取りでもうかがえることだが、こうした活動・行事への参加を通じて、実地に日本語を学ぶことができるのも事実である。取組3は、学習者から「日本語は読み書きが特に難しい」と言われていることを踏まえ、読み書きの能力が十分でない外国人でも、地域の行事・活動に参加して日本人と交流しながら実地に日本語を学ぶ機会を持てるように支援することを目指したもので、この取組で作成された、地域の歴史祭りのチラシの翻訳版は実際に配布され、公民館のサイトにも掲載された。

(4) 改善点、今後の課題について

i 現状

・教室運営・授業

当教室は、本事業以前から、数年にわたって当地で活動が続けており、毎週日曜日に公民館で開催される教室として、地域の外国人の間に浸透しつつある。実際、教室外で知り合った外国人と話す機会などがあると、教室に行ったことはないが、当教室のことは聞いたことがある、あるいは「公民館の日本語教室」として知っていると言われることが多い。そして、実際に教室に参加している学習者の中には、本事業の期間中、ほぼ皆勤で出席した者、本事業以前から通い続けている者もあり、概ね学習者の満足を得られていると思える。学習者からの聞き取りでも、学習者の要望に応じた授業内容、学習・生活相談、託児設置など、授業面でも教室運営の面でも、教室の活動は好意的に受け入れられている。

・地域の諸団体・機関との連携

これもまた、本事業以前から続いていることであるが、当教室は、活動の中で、地域の公民館や日本語学校、学習グループとの連携を行ってきた。本事業を通じて、さらにそうした地域の諸団体・機関との関係が強化され、学習者の地域行事への参加、学習支援、地域の人々との交流などの面で協力し合う関係が確立しつつある。

・スタッフ

当教室のスタッフは、資格・経験を有する日本語教師、企業や市役所の相談窓口で通訳業務に携わる者、資格のある保育士等で、学習者の様々な要望に応えられるように努めている。また、日本語教師を養成する学校で指導した経験を持つスタッフもあり、こうした指導者のもと、当教室で授業の補助者として経験を積み、今では指導者として授業を担当している者がいたり、さらに、最初は学習者として当教室に参加していたが、今は通訳担当のスタッフになっている者がいるなど、教室が日本語教育のための人材を育成する機能も果たしている。

ii 今後の課題

・教室運営・授業

当教室では、それぞれに生活形態の異なる外国人が、出来る限り多く授業に参加できるよう配慮した教室運営を行ってはいるが、それでも、「仕事が忙しい」、「家族と過ごす時間をとりたい」など様々な事情で、日本語を学びたいという意欲を持ちながらも、継続して教室に通えないという外国人は依然として多い。本事業以前のことであるが、日曜日の他に平日夜にも授業を行う、学習者の自宅等で授業を行うなど、いくつかの試みがなされたが、必ずしも効果をあげたとはいえない。また、当教室は生活者のための日本語教室として、実際の生活に直結した授業を行っているが、学習者間では、日本語能力試験等の資格試験への関心も高い。求職の際に有利になるといった実際的な理由もあるようだ。あくまでも生活のための日本語学習ということを基本としつつ、学習者の多様な希望に応じられる授業の持ち方ができないか。教室運営の経済面に関しては、スタッフの善意のボランティアに頼っているところが大きい。安定した教室運営を続けるには、経済的な基盤の確立が必要である。こうした点、検討をつけたい。

・地域の諸団体・機関との連携

当教室では、以前から、日本語教育活動を行う上で重要と思われる地域の諸団体・機関との協力関係を築いてきたが、今のところは、各団体・機関との個別的な連携にとどまっている。本事業を通じてその関係はより強固で緊密なものとなったが、事業の当初に構想してた、諸団体・機関と当教室で構成する横断的な、地域の日本語教育のための協議会の結成には至らなかった。これからも、このような協議会の結成を目指すべし、これまでのような個別的な関係の強化の方向で進めるか、検討したい。

iii 今後の活動予定

基本的には、現在の体制で、教室運営を続けていく予定である。毎週日曜日の午前に公民館で授業、月に一度の教室主催の交流イベント、地域文化祭等の行事への参加などである。これまでに築いた地域の諸団体・機関との連携を維持・強化していくことも当然である。スタッフの間でも、教室を継続していくことへの意思は固い。当面の活動は、スタッフの善意のボランティアによることになるが、将来的には教室の経済基盤を確立し、自立運営を可能にしたいと考えている。また、当教室としては今回の事業で初めて試みた、地域の行事・活動のチラシ類の翻訳についても、活動のありかたに検討をつけながら、継続していく予定である。

(5) その他参考資料